

年頭のあいさつ

代表理事組合長 中條秀二

組合員をはじめ地域の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、我が国経済は、米中貿易戦争の長期化や中国経済の減速を背景に、外需によるけん引力は低下するものの、高水準の企業収益や雇用・所得環境の改善により緩やかな回復基調が継続すると予測されています。

なお、TPP（環太平洋連携協定）が、米国抜きの11か国で協議が成立し、12月30日に発効され、さらに、日EU・EPAも2017年7月に大枠合意し、2019年2月1日に発効されます。このため、豚肉・牛肉・青果物等の関税が削減されることから、牛・豚マルキン制度の充実や産地パワーアップ事業など農畜産物の生産意欲喚起の対策を強く求めていく必要があります。

また、第12回鹿児島全共の開催日程が2022年10月6日から10日までと決定しました。2018年5月に、あいら地域全国和牛能力共進会出品対策協議会を立ちあげていますので、出品に向けた対策に拍車がかかると思います。さらに、2018年全国茶品評会において霧島市が「産地賞」を連続で受賞、個人部門でも1位から7位まで独占しました。そして、「霧島茶」で地域団体商標登録をJAあいらが獲得するなど、茶農家にとっては大変喜ばしい年になりました。

一方、農協法と監督指針の抜本的改正を受け、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に貢献する組織として、地域に必要とされるJAあいらとなるために、全戸訪問活動の取り組みや地域清掃活動の実施、地域イベントの開催と地域の行事への積極的な参加など、自己改革に取り組みました。

さらに、12月には3年毎に開催される鹿児島県農協大会で、次期3か年計画の指針が出されました。JAあいらも「第10次中期3か年計画」を策定し、六次化商品の開発・販売の継続、商工会議所・商工会との事業連携の実施、組合員・認定農業者と語る会の継続、買取販売の継続など、さまざまな取り組みを強化してまいります。引き続き、「変えるべきは変える、変わるべきは、自ら変わる」とする自己改革の実践を進めてまいります。

今後とも、協同組合の一員として相互扶助の精神のもと、役職員一同、農協事業にまい進してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に2019年が皆様にとりまして、幸多い年となられますことをご祈念申し上げます、年頭に当たってのご挨拶といたします。